

令和7年度第1回水産市場再整備基本構想検討会議 会議録

日 時：令和7年（2025年）4月24日（木）午後1時30分から午後3時00分

場 所：小田原市公設水産地方卸売市場 水産海浜課会議室

出席者：別紙名簿のとおり

※欠席者には後日、個別に会議資料について説明を行った

事務局：内田課長、内田係長、秋山主事

委託業者：林、種市、喜井

事務局である水産海浜課内田課長の進行により、第1回水産市場再整備基本構想検討会議が開会された。

冒頭、内田課長からの挨拶に引き続き、配付資料及び出席者の確認が行われた。

以降、中川委員長に進行役をお願いした上で、次第に沿って、次のとおり議論が進められた。

【議題】

1 議題（1）検討組織と役割について

内田係長から資料説明の後、質疑・意見等の確認が行われた。

各委員から質疑・意見等はなかった。

2 議題（2）今後の進め方について

内田係長から資料説明の後、質疑・意見等の確認が行われた。

<主な意見等>

中川委員長

- ・資料4（2）施設規模の設定、（3）目標とする取扱数量の設定について、売上目標を100億と設定しているが、陸揚げ鮮魚と陸送鮮魚の現市場での割合は2：8と伺っているが、市場の流通施設としての機能をどのように見ているのか。
- ・資料4（3）では令和18年度目標12,382トンとあるが、現在計画している施設で荷を集められるのか、新市場の荷さばき場と売場の設計のあり方にも関係するが、そのイメージをどのように考えているのか。
- ・高度衛生管理型を目指すには、様々な約束事がある。その制約がある中、働き方も変えていかなくてはならないし、導線のあり方も検討していかなくてはならない。商品形態も昔と変わっており、今は小売に出される段階でパッケージングなどの処理されたものが流通している。買受人にとって市場から引き取るときにどのような形が一番良いのかという問題や、市場における商物分離が進むなかで市場の使い方をよく考えるべき。
- ・また、高度衛生管理型の施設を計画するときに関係する省庁で、どのレベルまで施設基準等が許容されるのか、知識をいただきたい。

漁村総研

- ・高度衛生管理型の考え方として、基本的には場内と場外は区分する。場外を走った車

は場内への進入はできない。荷を受け取る際は、プラットフォームで受け、場内専用のフォークリフトを使用し、パレット等で陳列を行う。場内から場外へ搬出する時も同じく、プラットフォームまで場内専用のフォークリフトやパレット等で運搬し、場外の車両に積み込むという流れになる。

- ・人の流れとしては、場内へ入場する際に、専用の入口を通り、手洗いや長靴洗浄を行ってから入場する。トイレについては一度場外に出て行い、再度、場内に入場する際は専用の入口を通り、改めて手洗いや長靴洗浄を行ってから入場する。そのため、入場口の位置も人の流れを考慮して設置することが重要となると考える。
- ・荷さばき所の場内換気については、場内全体をエアコンで空調管理しているところは多くない。参考にしている銚子漁港の高度衛生管理型荷さばき所ではエアコンによる空調管理ではなく換気扇で対応している。

中川委員長

- ・HACCP 型を厳格に適用するのではなく、ある程度、実用可能なレベルまで緩めてあるがそれでも場外からの車両が場内に入場できないとされており、フォークリフトも場内場外で使い分けなくてはならない。搬出側にはドッグシェルターをつけるのか。
- ・通常の物流施設だとドッグシェルターがあり、トラック荷台が直接荷さばき所と行き来でき、閉鎖された空間となる。HACCP 型ではないとしても、通常の閉鎖型施設ならそのようなになっている。閉鎖型の場所とトラックの積み場は壁で閉鎖されているのか。

内田係長

- ・ドッグシェルターは設置せず、屋外にあるプラットフォームから直接積込を行うように計画している。
- ・水産庁の施設基準に照らして別紙2の区分で高度衛生管理型の補助対象施設として認められると伺っている。

中川委員長

- ・そのような方針で進めるのであれば、衛生管理のあり方は緩くなるのではないかと。

漁村総研

- ・今後の市場関係者との意見交換や全体事業費などにもよるが、衛生管理型施設としては、壁とシャッターでの仕切や、防鳥ネットで仕切るという方法もある。
- ・必ず、ドッグシェルターを設けて搬出用トラックと閉鎖的な空間とするのは厳しいところがある。衛生管理型の施設としては施設整備だけでなく、場外場内での荷の扱い方などソフト的な対応も必要となる。

中川委員長

- ・衛生管理型の具体的な設計イメージを次回以降の会議までに関係者の皆様に共有できるように準備をしてほしい。

内田係長

- ・衛生管理型の考え方を市場関係者に示す資料としては別紙２で十分と考えている。どのような内容が必要なのか。水産庁の補助事業として認められる最低限の衛生管理レベルを目指した施設整備を考えている。

中川委員長

- ・どのレベルの衛生管理を目指しているのか、情報共有できる形で次回までに資料に示してほしい。

漁村総研

- ・衛生管理型施設について資料としてまとめて提示する。

稲村委員

- ・卸売人としての意見を取り入れた施設配置イメージを取りまとめている。今後は、目標とする取扱数量などを明確に示したいと思っている。

中川委員長

- ・小田原漁港で取り扱う陸送品の割合、漁船の陸揚げ量について、今後、漁業を続けていく漁船をどのように増やすのかの議論も含めて検討が必要だと思う。

内田課長

- ・中川委員長のご発言のとおり、陸揚げ量は市場の取扱量 12,500 t 前後に対し、20%～25%程度となっている。令和 6 年度実績で約 3,380 t が陸揚げ品で残りが陸送品として運ばれてきたものになる。
- ・現状、目標数量は達成しているが、今後、すう勢として人口減少などもあり、陸送品を取り扱っても売れるのかという問題点も考えられる。
- ・今後の取扱量などの整理は必要。特に陸送品については商物分離が進むことも考慮する必要があるのではないかと考えている。

中川委員長

- ・陸送品は冷凍品、冷蔵品、加工品などそれぞれ包装方法が異なる。商品の荷姿によっても荷さばき所でどのように処理するのか変わってくるが、直送で荷姿が出来上がった状態で運ばれてくることがほとんどになってきた。そのような状態を前提として、陸揚げ量が平均としてどの程度見込めれば効率よく捌けるのか、イメージすると良い。
- ・目標値は、上げていくことが非常に重要と考える。

内田課長

- ・目標値については、経営戦略においてすう勢をもとに見込んだ数値に迫いついてきた状態ではあるが、当時の目標ありきではなく、施設規模からも数値目標を定めていきたい。

中川委員長

- ・そのことも含めて「コンパクトで効率の良い市場」をコンセプトとしていると認識している。施設をコンパクトにした時に、どのように効率的に施設を使えるのか、市場を設計するにあたり考慮する必要があるので、そのためにワークショップで十分に意見交換を進めてほしい。

関委員

- ・やはり目標数値が気になった。当時の数値根拠については説明の中で理解はしたが、陸揚げについて、漁業者自体が減っている中で量を増やすことは難しい。
- ・目標値として数字を出す際には、幅広く社会情勢等を加味して検討していく必要があり、その根拠を示した上で目標値を決める必要がある。

中川委員長

- ・売り上げを上げていかないと市場を存続する必要性がないのではないかな。

関委員

- ・売り上げを上げるための努力、工夫も必要だと思う。

中川委員長

- ・産地市場としての再整備も考えていかなければならないのではないかな。

内田課長

- ・小田原漁港は、神奈川県西部の拠点市場として小田原市の定置4漁場、二宮、大磯、岩、真鶴、福浦、最近ではさらに平塚と江の島からの陸揚げがある。
- ・県外では東伊豆の網代や富戸が、いとう漁協に陸揚げをせず小田原に陸揚げをしている。
- ・平成30年度と令和元年度は、台風で陸揚げ量が減少したが、令和2年以降は陸揚げ量が回復し、現在では3,000tを超えている。

中川委員長

- ・数値的な前提があればこそ再整備するという意味もある。小田原漁港は第三種漁港だが、県外船は受け入れないのか。

内田課長

- ・東伊豆の網代や富戸以外でも、卸売人が受け入れる体制があれば受入れ可能である。

中川委員長

- ・搬入量を増やせば市場のパフォーマンス自体も増えるが、その時の荷の流れをどのように交通整理するのか設計にも関わってくる。
- ・買受人は今までのように陸揚げした場所に陳列される形で良いのか。

石田委員

- ・買受人としては、市と卸売人で叩き台として整理した別紙１・２の形がシンプルで良いと思う。

中川委員長

- ・ダンベ（大型プラスチック容器）での競りに必要な面積についてなど、市場関係者で良く話し合いをして詰めていただきたい。荷さばき所の空間の使い方が話し合いの結果によって変わってくる可能性もある。
- ・温度管理についても考えなくてはならない。また、コロナ禍以降に消費者の衛生管理に対する意識も高まっており、そのすべてを含めて高度衛生管理型というのではないか。皆さんが共通のレベル認識を理解して話を進めて行くべきであり、次回以降の会議ではより多くの資料が提示されることが期待される。

最後に、内田課長から報告事項等があり本会議を終了した。

内田課長

中川委員長はじめ委員の皆様、ありがとうございました。委員の皆様には情報共有させていただきます。

今後、本日の議題で説明しました施設規模の設定について、団体ごとにワークショップを開催し、ヒアリングや意見交換を行い、意見を集約してまいります。

次回の会議開催は６月下旬頃を予定しております。

また、夏頃に新市場に向けた衛生管理講習会を予定しております。

これで第１回水産市場再整備基本構想検討会議を終了します。本日は、ありがとうございました。

以上